

蒸気機関車（SL）



* 和田敏英収集史料144「山口線の蒸気機関車」

解説

湯を沸かして発生する蒸気の力を利用する蒸気機関車（SL）は、産業革命が進行中の英国で誕生しました。

1804年、英国のトレビシックが作製し走らせたSLが史上最初のものでされています。その後、SLはスチーブソンらによって改良され、1825年に「ロコモーション号」がストックトン・ダーリントン間を走行しました。これが、公共鉄道を走った最初のSLです。

さらに、1830年に開通した、本格的な鉄道であるリバプール・マンチェスター鉄道をきっかけに、世界はSL鉄道時代に突入しました。英国について本格的な鉄道時代を迎えたアメリカでは、東海岸から西海岸までの大陸の横断に幌馬車で数ヶ月を要していたのが、数日で大量かつ確実に人や物を運ぶことができるようになりました。

欧米諸国より約40年遅れた1872（明治5）年に、日本では新橋・横浜間で最初の鉄道が開通し、当時陸蒸気（おかじょうき）と呼ばれたSLが走りました。国産のSLが誕生したのは、さらに20年後の1892（明治25）年のことで、それ以来、欧米で開発された技術を取り入れたSLが作られました。山岳地帯と海岸沿いの平地を併せ持つ日本は、多種多様なSLを国産した世界でも数少ない国であり、昭和に入ると日本のSL技術は欧米とくらべてもそう見劣りしない段階まで到達しました。

写真は、国鉄（現JR）山口線を走るSLです。山口線では、SLは1973（昭和48）年に姿を消しましたが、1979（昭和54）年に観光列車「やまぐち号」として復活し、現在も根強い人気があります。